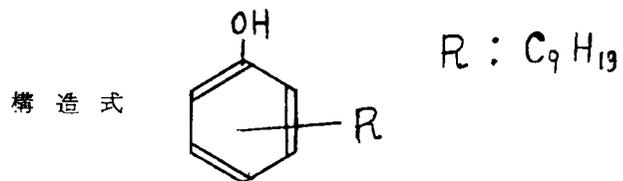


ノニルフエノールの分解度試験成績報告書

1. 試験期間 昭和50年3月3日～昭和50年5月10日
2. 試料名 ノニルフエノール (試料名 K-69)
- 分子式 $C_{15}H_{24}O$



3. 試験方法及び条件

環 保 業 第 5 号
 薬 務 第 6 / 5 号 } 微生物等による化学物質の分解度試験による
 49基局第392号

3.1 試験装置

酸素消費量自動測定機

3.2 酸素消費量測定

3.1の記録による

3.3 生分解試験後の直接定量法

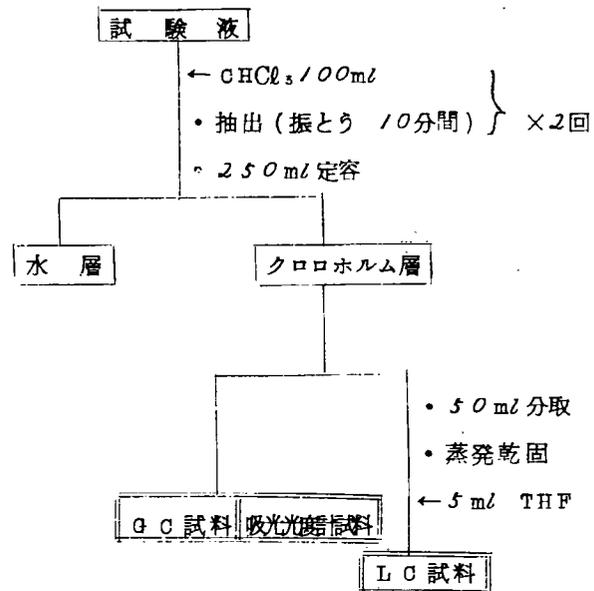
(a) 使用分析機器

ガスクロマトグラフ 検出器 FID

紫外可視自記分光光度計

液体クロマトグラフ

(b) 分析試料の前処理



(c) 分析条件

ガスクロマトグラフ (GC) 検出器 FID

キャリアガス N_2

充てん剤 DC 200 2%

ガラスカラム $2\text{mm}\phi \times 0.3\text{m}$

カラム温度 $85^\circ\text{C} \sim 150^\circ\text{C}$ 1.5分保持

昇温速度 $2^\circ\text{C}/\text{min}$

紫外可視自記分光光度計 (吸光度計)

波 長 $230\text{nm} \sim 350\text{nm}$

スリット幅 4nm

使用セル 石英セル $10\text{mm} \times 10\text{mm}$

(以下余白次頁に続く)

液体クロマトグラフ

カラム ステンレス 7.5 mm ϕ × 6 / cm
固定相 G-1000
溶離液 THF
流速 1.3 ml/min
検出器 UV (277 nm)

4. 試験結果

	分解度 (%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	0	1	—
GCによる結果	8.9	2	1
吸光光度計による結果	5.3	3	2
LCによる結果	2.5	4	3

5. その他

試験液の水系において、GC, UV, LC分析で残留率が
60~70%しかないのは揮散性によるものと推定される。

以 上